

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立武蔵高等学校・附属中学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教育情報部主任）＝事務局長、事務局、経営企画室長 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、中・高副校長、中・高教務主任、中・高生活指導主任、中・高学習進路主任、教育情報部主任、各学年主任 計16名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表（1名）、同窓会代表（1名）、近隣小学校長（1名）、近隣中学校長（1名）、教育行政関係者（1名）、地域関係機関代表（1名）、地域住民代表（1名） 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～4回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月17日（火）内部委員13名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月11日（火）内部委員13名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和8年2月17日（火）内部委員13名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月17日（火）内部委員13名、協議委員7名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和7年11月11日（火）内部委員13名、協議委員7名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和8年2月17日（火）内部委員13名、協議委員7名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
学校経営計画に則した内容で評価する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：893人 回収：818人 回収率：92%
 - ・12月 保護者全員 対象：893人 回収：672人 回収率：76%
 - ・12月 地域・住民 対象：11人 回収：8人 回収率：72%
 - ・12月 教職員 対象：56人 回収：56人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - 学校運営、学習活動、生活指導、進路指導、特別活動など
 - 今年度の重点：学習指導、生活指導、進路指導
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・学校は、学校ホームページの有効活用による発信力の向上が必要である。
 - ・年末時点で在校等時間80時間超えた職員が複数名おり、教員一人一人のライフワークバランスの実現ができているとは言い難い状況である。

- ・より多くの個別指導や講習を実施して生徒の学力向上を図ってほしい。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
- ・募集倍率を向上させるため、ホームページやSNSの活用など広報活動を強化する必要がある。
 - ・教員の働きやすさが生徒に還元されるという視点を持ち、業務の「廃止」と「外注化」による単なる効率化ではなく、分掌・学年等で「やめる業務」を明確にするトップダウンの判断が必要である
 - ・個別学習について、生徒の実態を踏まえて重点的な取組を検討する必要がある

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、募集倍率向上のためより積極的な募集活動の実施、充実が必要であると再認識できた。
 - ・校務削減し、教員のライフワークバランスを意図的に作り出すことの大切さを改めて分かった。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。
 - ・地域の人材活用を一層推進するとともに公開講座等の拡大・充実が必要である。
 - ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学校運営
- ・特色ある教育活動を、地域の方々に理解していただくため、学校ホームページ等を活用して、発信するほか、地域連携を積極的に取り組むことを目指す。
 - ・生徒の学校生活充実のため、教育目標の周知や特色の明確化を進める。
- (2) 学習活動
- ・生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、ICT機器等を活用して質の高い授業を実践する。
 - ・生徒自らが予習復習と授業の学習サイクルの確立を進め、主体的に学習を展開し、達成感を自覚できる環境を維持させる。
- (3) 特別活動
- ・引き続き安全・安心な学校行事及び部活動を実施する。
 - ・学校行事の運営について、中高とも実行委員の生徒などの主体的な活動を促し、立案・実行する。
- (4) 生活指導
- ・基本的な生活習慣やマナーを身に付ける指導を継続し、健康な心と体の育成に尽力する。
 - ・生徒の心身の悩みに応えるべく、教員間で情報共有を密にし、生徒への声掛け指導を継続する
- (5) 進路指導
- ・個々の適性や希望に合わせた有効な情報提供を続け、主体的に進路を切り拓ける力を身に付けさせる。
 - ・発達段階に合った細やかな指導を担当や進路部を中心に組織的に支援する体制を継続する。
- (6) 健康・安全
- ・スクールカウンセラー、地域の諸機関との連携を引き続き強化する。
 - ・生徒の登校時における徒歩や自転車での交通マナーについて引き続き指導する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 7人
 (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人
 【成果】 参加なし

8 その他

- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やす。